

花鳥風月・短歌

八十路近し手を休めてる時間多く

頭では済み現実はまだ

守谷肇

野生の鳳仙花寄せ庭の隅

色どり添えて陽に挨拶

塗塀良子

四年ぶり太鼓台舞る巫女が舞ふ

収穫の秋待ちに待ちたり

徳永誠一

夏本番偶然出会う同い年

街の長椅ひと息入れる

三谷福美

年毎に増える災害甚大に

為す術もなくじっと見つめる

佐伯 定則

告知され土用太郎にドクターの

説明を受け安堵する

小林 泰子